

大阪大学の将来構想
2031年(創立100周年)に向けて

社会変革に貢献する 世界屈指のイノベーティブな大学へ



2022年1月20日(木)

国立大学法人大阪大学
総長 西尾 章治郎



① ビジョンの具体化・高度化

② 経営改革構想の概要

③ 海外大学を参考とした主たる成果

④ 主な取組実績（6つの柱）

① 人材育成・獲得

② 研究力強化

③ 社会との連携

④ 国際協働

⑤ ガバナンスの強化

⑥ 財務基盤の強化

⑤ 第4期に向けた 新規 の重点取り組み・計画





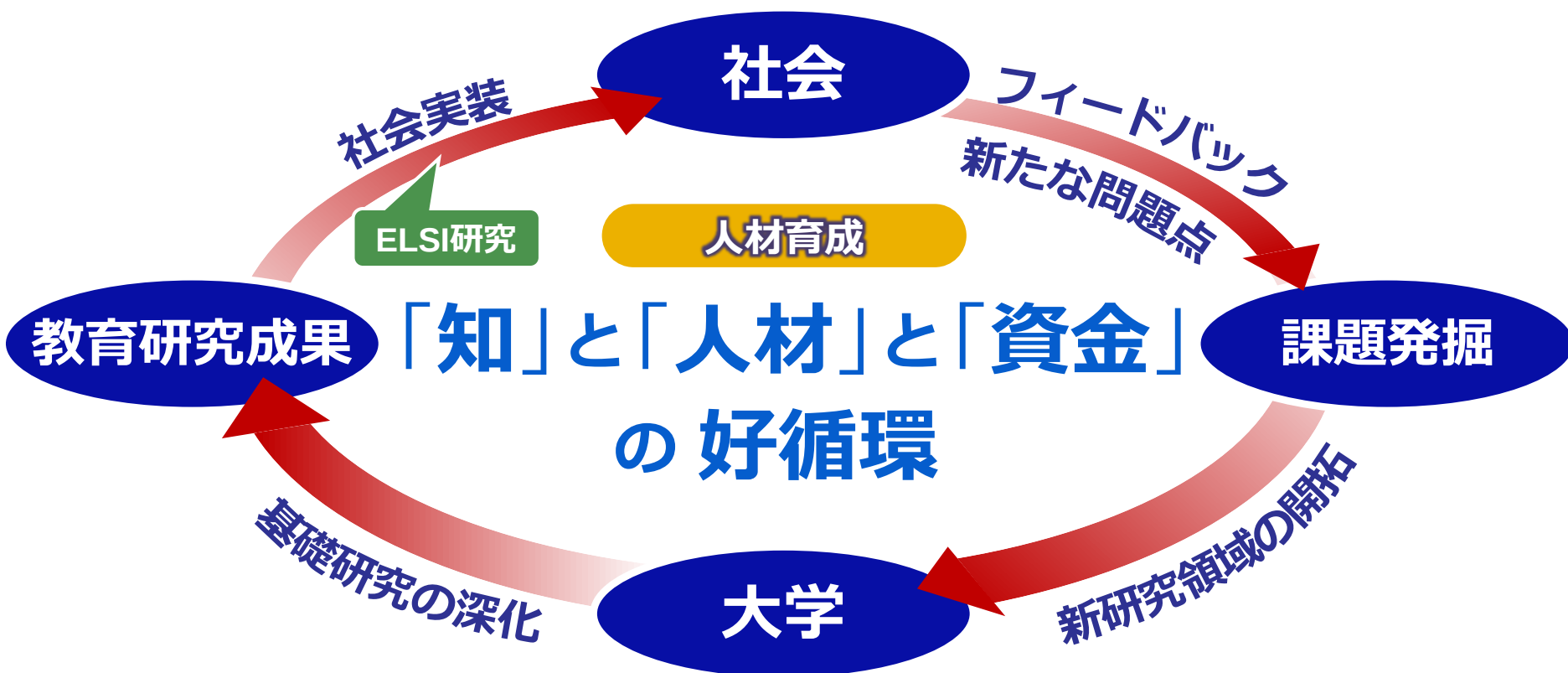
大阪大学が目指す社会変革の方向性を具体化

社会との共創による 生きがいを育む社会 の創造



OUエコシステムをエンジンとした経営改革

卓抜した教育研究成果を社会実装し、その中から生じる新たな課題を分析し、教育研究現場に還元する好循環を築き、一層大きな社会変革を生む新たな価値創造のシステム





③ 海外大学を参考とした主たる成果

国際ベンチマーク

取組

主な成果

1

社会との共創

スイス連邦工科大学
ローザンヌ校

社会との窓口を
一本化した
産学連携機構

共創機構の設置

- 全学の共創活動の司令塔
- 社会との窓口を一本化
- 組織対組織の共同研究

共同研究費
2倍に増加

46.6億円(2016)



95.4億円(2020)

2

ガバナンス改革

エディンバラ大学
(英)

カレッジ制
(組織を大括り化した
意思決定機能)

阪大版プロボスト導入 戦略会議の設置

- 部局を大括り化した
戦略会議の設置
- 迅速な全体最適の
意思決定の推進

教育

- 一貫した教育体制の整備
- 卓越大学院の採択

研究

- 学際融合研究の推進
- 新たな世界トップ拠点形成
- 国際共著論文比率の向上

ガバナンス

- 迅速な新型コロナウイルス
感染症対策 など





④-1 人材育成・獲得

今期の成果

一貫した教育体制の整備 – 高大接続から卒後キャリアパス・リカレント教育に至るまで –

教育改革の全体像の策定・周知





国際ベンチマーク大学との比較

**国際ベンチマーク大学のスコアが下がる中、
本学は上昇**

THE世界大学ランキング 教育Reputationスコア比較

大学名	2020年	2021年	伸び
<u>大阪大学</u>	<u>43.6</u>	<u>45.2</u>	<u>+1.6</u>
エディンバラ大学	75.9	74.6	-1.3
スイス連邦工科大学 ローザンヌ校	62.4	59.8	-2.6

- 一貫した教育体制の改革
- 本学学生に対する企業の評価：答えのない課題に対する取組力への高い評価





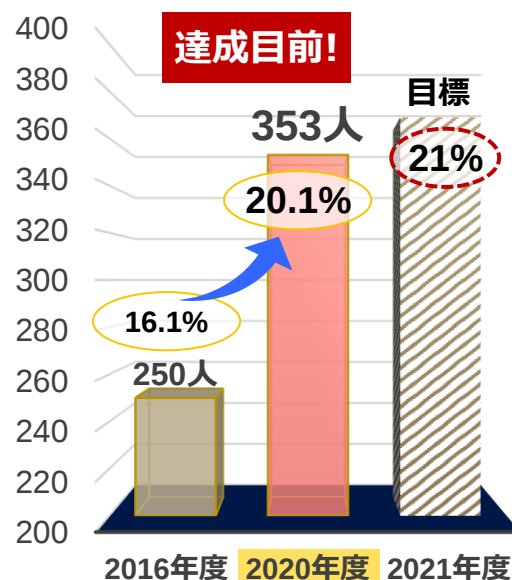
④-1 人材育成・獲得

多様な価値観や文化的多様性によりイノベーションを活性化させる

- ▶ 「Diversity」がイノベーションの根源
- ▶ Diversity & Inclusionにあふれたキャンパスを実現

女性研究者

目標：2021年度→21%

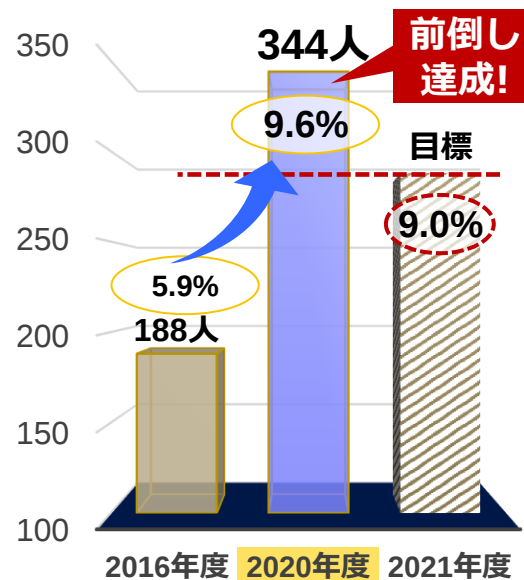


取組

1. 本部から女性ポスト支援 (10ポスト)
2. 文部科学省や企業と連携した女性研究者環境整備

外国人研究者

目標：2021年度→9.0%

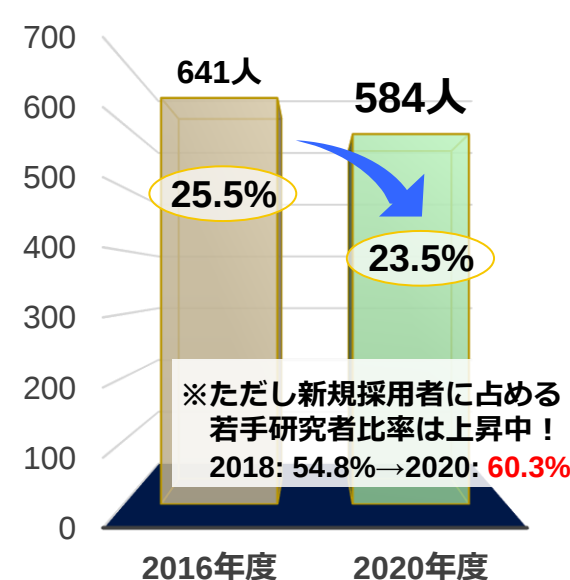


取組

1. 本部から国際共同研究費を支援 (国際ジョイントラボ) 年間総額2億円
2. 海外機関とのクロス・アポイントメント件数59件 (国内トップ)

若手研究者

目標：2021年度→30%



取組

1. 寄附金等による若手ポスト措置 (高等共創研究院) ▶50ポスト
 2. 部局負担による若手教員ポスト拡充 ▶50ポスト
- 合計100ポスト





世界トップレベル研究の推進

新しい社会創造に
貢献する研究推進

新たな
世界トップ拠点の形成

大阪大学が、一番大切にしていること

**“全ての研究者が自由な発想に基づく
研究に打ち込める環境整備”**





今期の成果 新たな世界トップ拠点を形成

量子情報・量子生命研究センター

(2021年4月設置)

- 世界で最大規模の研究者が本学に結集
- 現在の情報通信・情報処理技術を凌駕する量子技術の発展を目指す
- MEXT「Q-LEAP」採択
- 外部資金総額約**19**億円（2020）、自立運営を実現

(参考) 研究指標	
研究者数	76
FWCI	1.15
Top1%論文割合	1.3%
Top10%論文割合	16.6%
量子コンピュータ関係特許出願件数 大学ランキング (注)	世界5位／日本1位

(注) 出典： 大阪大学＋クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社 「技術動向調査」 2020年7月6日





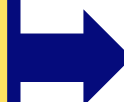
④-2 研究力強化

今期の成果 社会創造に貢献する研究推進

感染症による将来の脅威に備え、人々の命を守り、社会・経済活動の維持に貢献することを目指す拠点形成

感染症総合教育研究拠点を設置

(2021年4月設置)



日本財団から10年間で
230億円の支援

● 3つのアクションプラン

1. 科学的エビデンスに基づいた情報発信
2. 感染症克服に向けた基礎研究基盤構築
3. 医療人材の育成



● 総合大学の強み ➡ 層の厚い免疫・ウイルス研究者に加え異分野融合による感染症に関する研究体制



免疫学
坂口志文 特任教授
制御性T細胞、
免疫疾患



免疫制御学
竹田 潔 教授
自然免疫機構の解析



免疫学・内科学
熊ノ郷 淳 教授
免疫反応の分子的メカニズム
の解明、新規治療法の開発



ウイルス分子生物学
松浦善治 特任教授
感染複製機構解明

新型インフルエンザ等対策有識者会議

大阪府新型コロナウイルス対策本部専門家会議



行動経済学
大竹文雄 特任教授
経済政策



社会心理学
三浦麻子 教授
社会的影響調査



理論物理学
中野貴志 教授
K値を用いた感染状況の
マクロ解析



感染制御
忽那賢志 教授
感染制御に関する
疫学解析





今期の成果 人文学・社会科学の知見を活用した社会との共創

全国に先駆けてELSI総合研究拠点

「社会技術共創研究センター」

(ELSIセンター) 設置 (2020年4月)



新規科学技術の発展を最大限に活かすために、
ELSIに関する活動を全学展開

総合研究

協働形成

実践研究

ELSI人材の育成

ELSIセンターの国際的な展開

- ▶ モントリオール大学などの海外大学とも連携
多国間コンソーシアム“U7+”フォーラムへ
提出する提案書作成に参画！





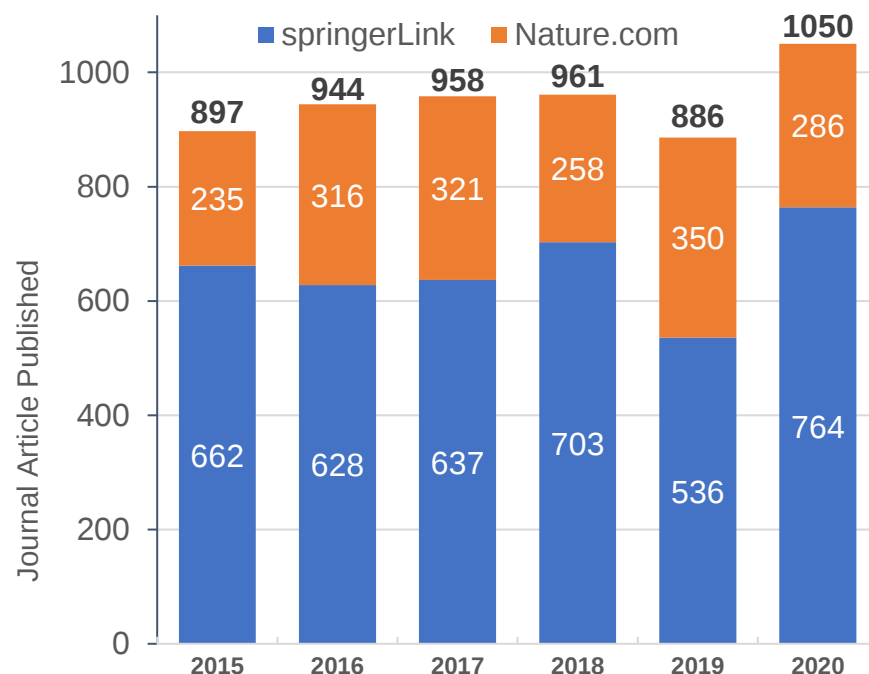
今期の成果 IR×URAによる研究力強化支援

論文数・雑誌掲載論文数が増加

Scopus論文数（本学について拡大）



Springer Nature社雑誌への本学掲載論文集



昨年に比べ19%増

前4年（2016年～2019年）平均に比べ12%増

2019年後半から
支援強化

対象者

論文の量・質を分析し、中間層の若手・博士を対象

支援内容

● 英語論文作成支援 ● 雑誌掲載費用支援

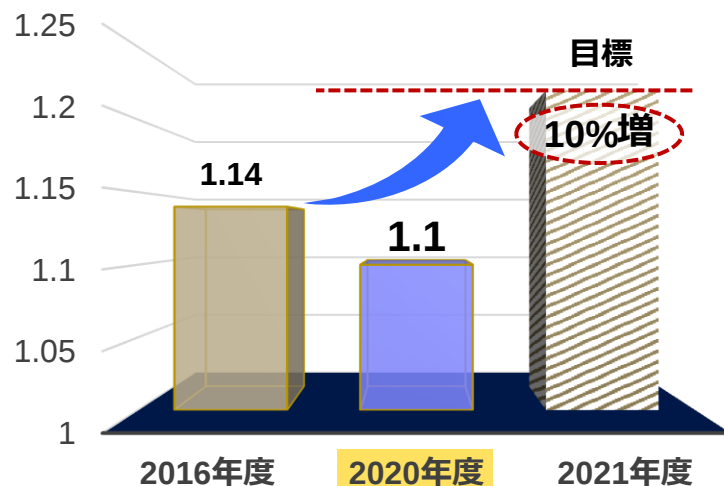




④-2 研究力強化

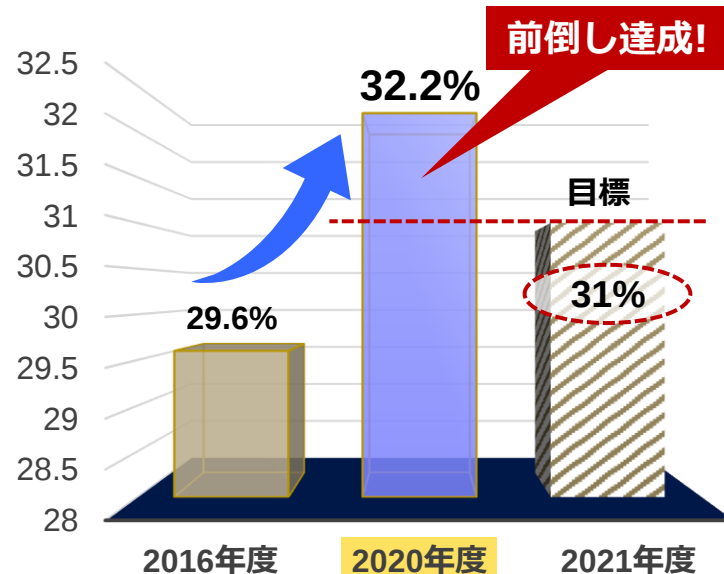
相対被引用インパクト

目標：2021年度→2016年度と比べ10%増加



国際共著論文比率

目標：2021年度→31%



【国際ベンチマーク大学との研究力比較】

大学名	相対被引用インパクト		国際共著論文比率	
	2016年度	2020年度	2016年度	2020年度
大阪大学	1.14	1.10	29.6%	32.2%
カリフォルニア大学バークレー校	2.56	2.31	45.8%	49.7%
エディンバラ大学	2.37	2.25	56.8%	62.6%
スイス連邦工科大学ローザンヌ校	2.15	1.89	66.1%	68.5%



今期の成果

- ◆ 共創の司令塔の設置 **共創機構** (2018年1月設置)
- ◆ 「OUエコシステム」 (好循環システム) の構築

社会との共創

- 共同研究の推進
- 知的財産戦略の強化
- イノベーション人材の育成
- ファンドレイジング活動の強化



大阪大学 共創機構

課題発掘

IR×URAによる
課題の情報収集・分析



教育研究成果

OUエコシステムによる
「知」「人材」「資金」の好循環実現



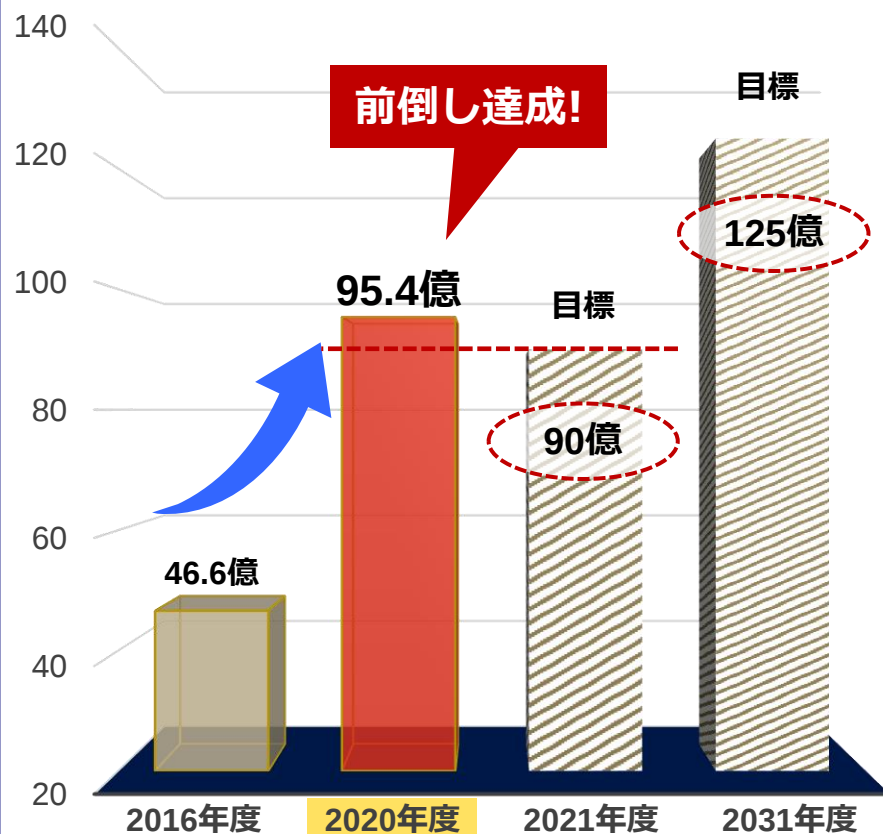


今期の成果

共同研究の大幅な拡充

共同研究受入額

目標：2021年度→90億円
2031年度→125億円



2019年度実績

※文部科学省

「令和元年度大学等における産学連携等実施状況」

共同研究受入額・件数

→ 国内第2位

大型共同研究受入額

1,000万円以上

→ 国内第1位
(3年連続)



今期の成果

戦略的な特許戦略推進

知的財産の強化

知的財産ライセンス

件数

204 件 (2016) → 310 件 (2020)

実施等収入

2.2 億円 (2016) → 6.4 億円 (2020)

大学発ベンチャー

80 社 (2016) → 168 社 (2020) 国内3位

国際産学連携の推進

海外企業との共同研究等

16 件 (2016) → 33 件 (2020) 2 倍に増加

国際特許出願件数

世界15位 (教育機関) (2020) 国内2位





今期の成果

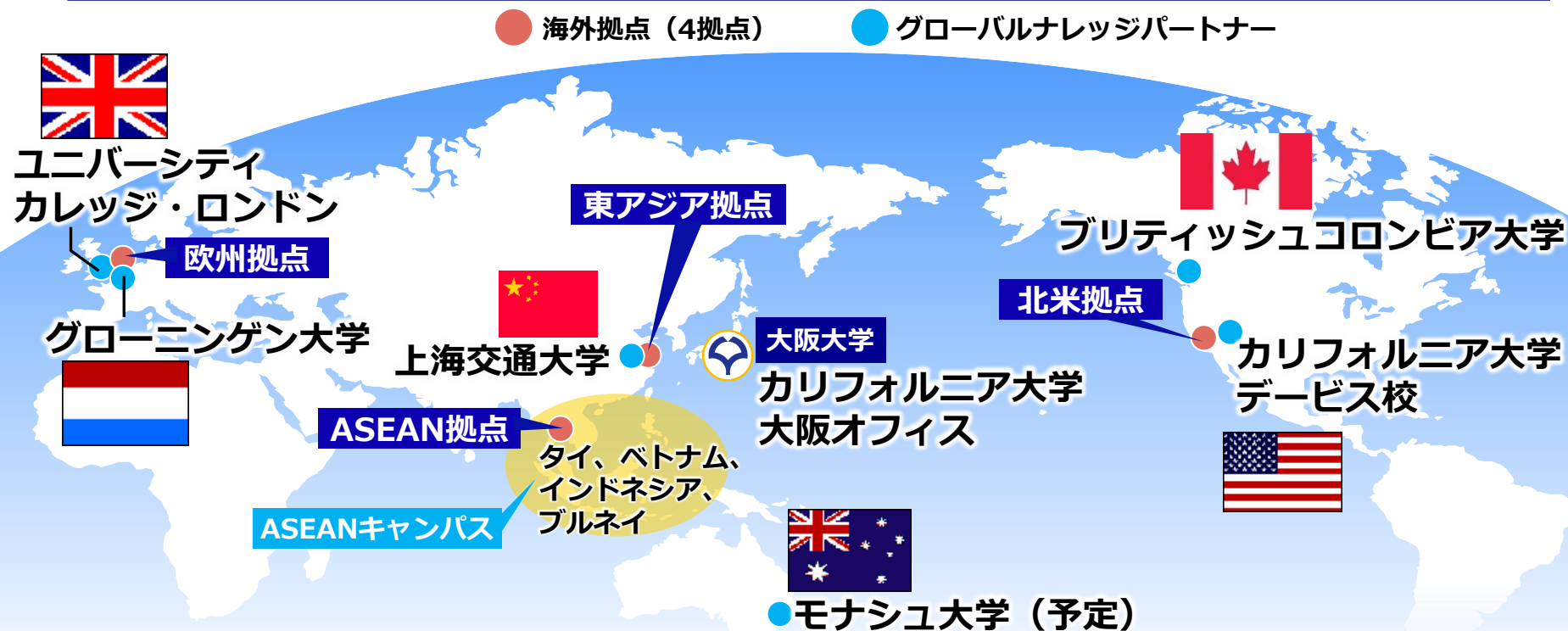
国際協働ネットワークの基盤強化

グローバルナレッジパートナーを5校に拡大（20校目標）

- ・地球規模課題に挑戦するとともに、高度人材育成に取り組む。

ASEANキャンパス（4か国）の設置完了

- ・現地学生への高度人材育成と現地社会課題への取組を推進。



今期の成果 グローバルナレッジパートナーとの成果

国際共同研究の推進

- 地球規模の社会課題解決を目指した共同研究を実施

上海交通大学 12件

UCL 18件

オンラインによるセミナーの開催（2020年11月）

- 上海交通大学と10分野のセミナー開催

学術交流セミナー

学生セミナー

特に、「スマートシティ」分野では大阪市及び上海市の部長級も参画し、国際的な地域連携を推進





今期の成果

大阪大学ASEANキャンパス

地域ニーズに応える共同研究・高度人材育成を推進

連携分野におけるDDPを構築、現地キャンパスを活用し、日本滞在期間を短縮



地域課題を解決し「質の高い成長」へ

● 学生交流プログラム	→ 留学生受入180人、派遣学生59人
● ASEANキャンパス活用型 ダブル・ディグリー・プログラム (DDP)	→ 留学生受入180人、派遣学生59人
● 現地キャンパスを活用した ハイブリッド型プログラム (OUICP)	→ 5件 (R2) 66人、(R3) 46人
● 理系学生 のための 日本語ビデオ・オンデマンド・プログラム	→ (R2) 11人、(R3) 19人

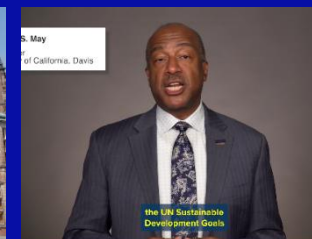


本学のリーダーシップによるアライアンス化の推進

Osaka University Partner Summit 2021年4月30日開催

「COVID-19後の社会課題への大学の役割」を議論・共同宣言

2025年の大阪・関西万博
連携の中間的な成果を発表する機会



参加6大学と共同宣言

マヒドン大学（タイ）／上海交通大学（中国）／ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）／ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（英国）／カリフォルニア大学デービス校（米国）／グローニンゲン大学（オランダ）



今期の成果 現地政府等との連携

インドネシア共和国政府との連携協定

3つの分野で連携。共同研究を推進。

- ▶ ワクチン開発
- ▶ フードセキュリティ
- ▶ バイオテクノロジー



AKHMADI駐日インドネシア全権大使（左）と西尾総長（右）

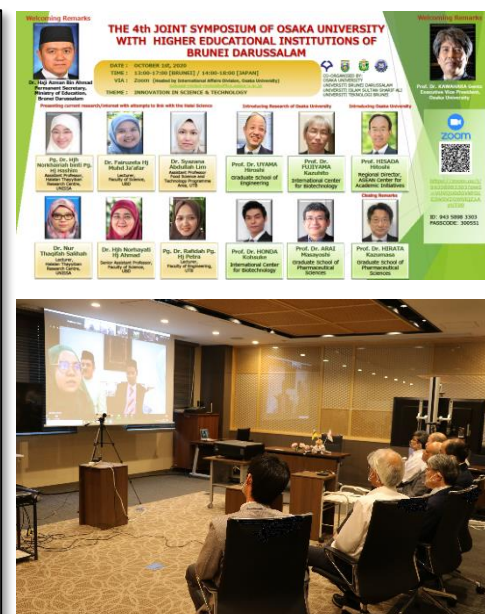
ブルネイ・ダルサラーム国政府との連携

ハラルサイエンス等をテーマにした ジョイント・シンポジウムを開催

ブルネイ教育省及び資源・観光省と連携した 教育プログラム及び共同研究の推進



教育省事務次官による挨拶
ブルネイ現地新聞記事
(2020.10.3)



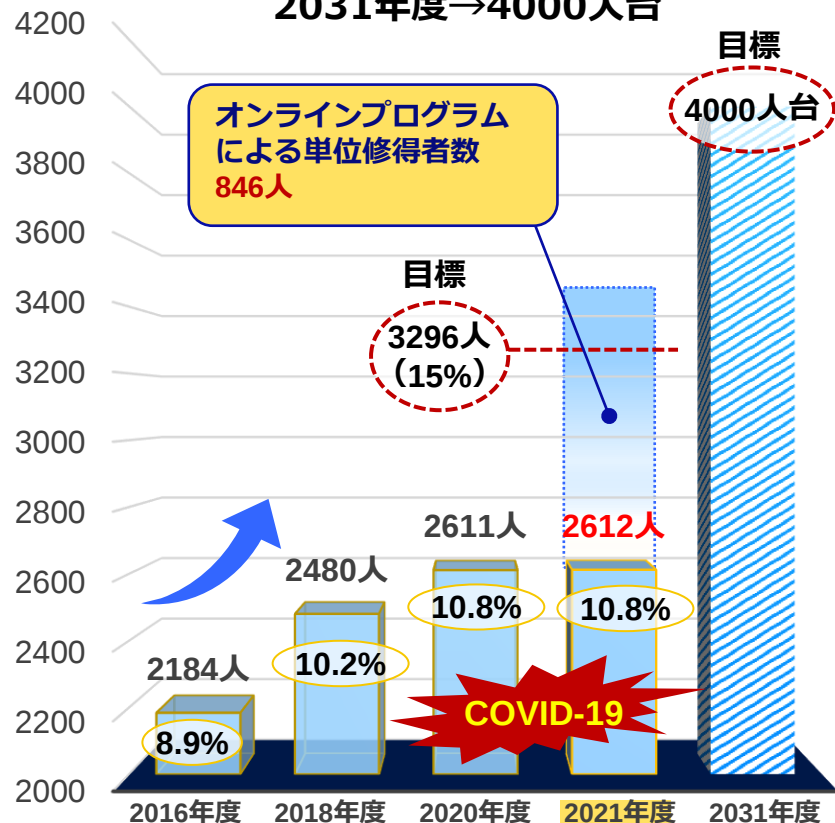
第4回ジョイント・シンポジウム の様子



学生交流実績

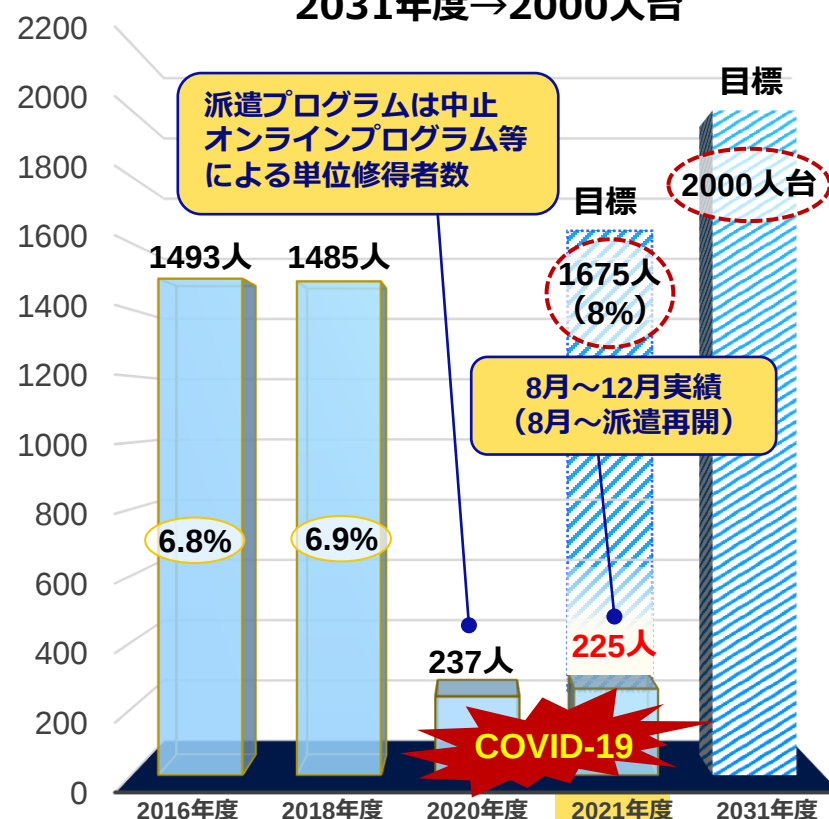
留学生の受入数 (5月1日現在)

目標：2021年度→3296人 (15%)
2031年度→4000人台



日本人学生の海外派遣数

目標：2021年度→1675人 (8%)
2031年度→2000人台



コロナの影響により学生交流に係る取組の大幅見直しが必要。
今後は、オンラインによる活動にも注力して学生交流を推進していく。





今期の成果

2021年4月開学 箕面キャンパス (OUグローバルキャンパス)



これからの100年も 大阪に国際人を育てる

▶世界70にも及ぶ国・地域からの研究者・
学生が集う国際拠点

グローバルビレッジ津雲台

学寮300戸 教職員宿舎400戸
(2020年10月共用開始)



▶外国人研究者・留学生の受入れ環境向上

グローバルビレッジ箕面船場

学寮320戸 (2021年4月共用開始)





④-⑤ ガバナンスの強化

今期の成果

統括理事（阪大版プロボスト）と戦略会議設置
強くしなやかなガバナンス体制の確立

大学経営には
ボトムアップとトップダウンのバランスが重要





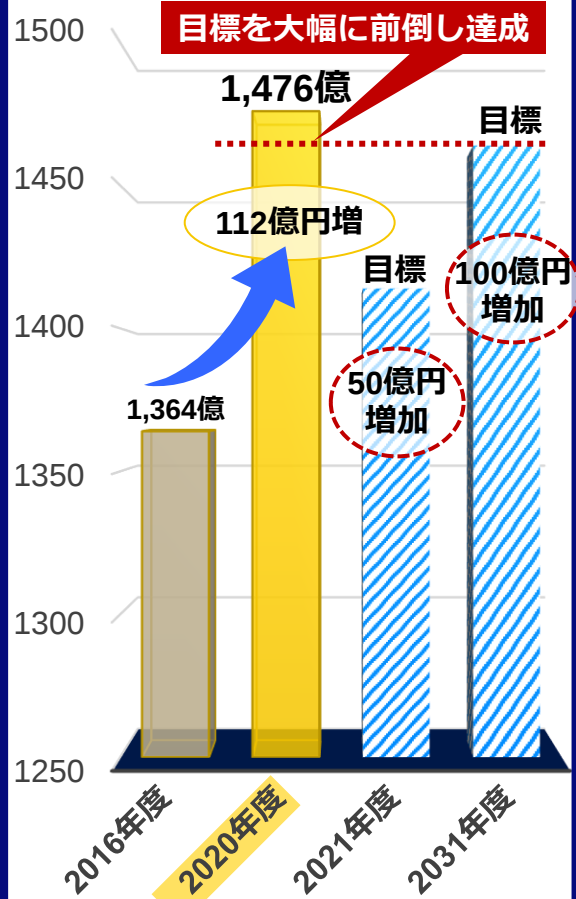
④-⑥ 財務基盤の強化

今期の成果

安定的かつ持続的な財務基盤の強化

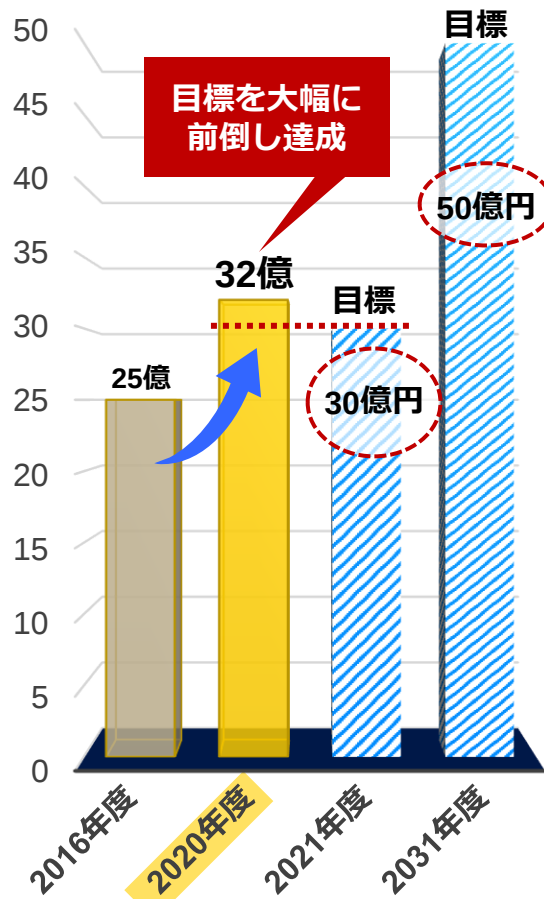
総収入

目標：2021年度→50億円増加
2031年度→100億円増加



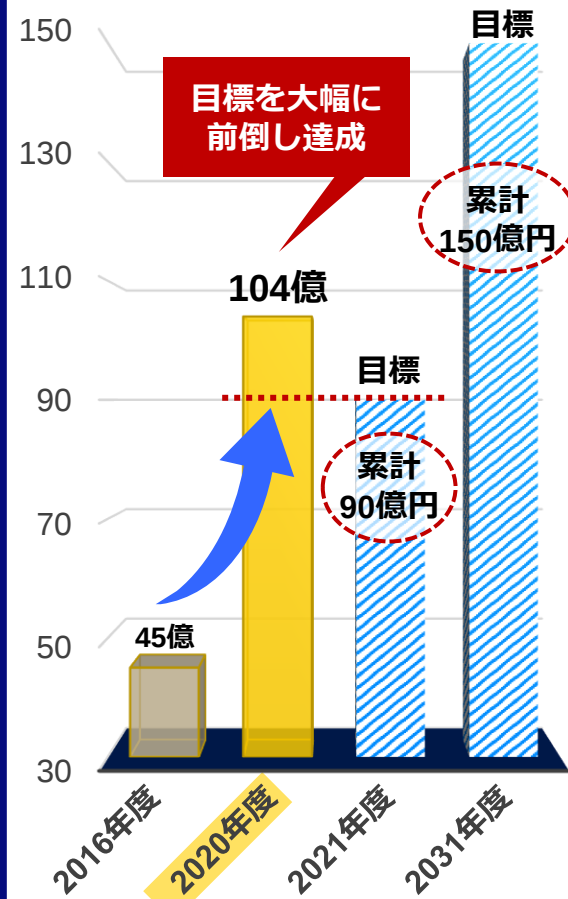
総長裁量経費

目標：2021年度→30億円
2031年度→50億円



大阪大学未来基金 (累計)

目標：2021年度→累計90億円
2031年度→累計150億円





⑤ 第4期に向けた **新規** の重点取り組み・計画

1

人材育成・獲得

学修環境のデジタル・トランスフォーメーションにより、**教育成果を可視化**し、社会への説明を強化



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

2

研究力強化

IR×URAによる重点支援
世界トップ拠点を**5拠点**に拡大

3

社会との共創

複数部局、複数企業との共創により
課題を探る体制の強化

4

国際協働

バーチャル留学などアフターコロナを見据えた国際体制を強化

5

ガバナンス強化

全学的な情報基盤を整備し
デジタル・トランスフォーメーションによる経営体制を強化

6

財務基盤強化

資金や土地など**新たな資産活用**体制の構築



社会との共創による 『生きがいを育む社会』の創造

個々人が社会で活躍できる寿命(社会寿命)を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を生かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を創造する『真のオピニオンリーダー』になる。



そのための中長期の一貫した大学経営指針
「OUマスタープラン」策定

